

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人宮崎県立芸術劇場	
施 設 名	宮崎県立芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	28,963	(千円)
	公 演 事 業	18,331 (千円)
	人 材 養 成 事 業	6,729 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,903 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	なるほどクラシックコンサート Vol.9 「ベートーヴェンからブラームスへ」	9月12日、13日	出演／白井圭、津田裕也、日高剛、桐原直子 曲目／ L.V. ベートーヴェン：エリーゼのために、からくり時計のためのアダージョ 他	目標値	650 (3公演)
		演劇ホール、小林市文化会館		実績値	359 (3公演)
2	「新 かぼちゃといもがら物語」#5 『神舞の庭』	宮崎公演： 10月23日～25日 動画配信※： 3月3日～28日	演目／『神舞の庭』 作／長田育恵 演出／立山ひろみ  出演／ 大沢健、東風万智子、貴島豪、日高啓介、平佐喜子、成合朱美、森川松洋、高野桂子、石倉来輝、原田千賀子  スタッフ／ 舞台美術：土岐研一、照明：工藤真一、音響：関本憲弘、舞台監督：土屋宏之 他	目標値	(宮崎・東京) 900
		イベントホール、PIA LIVE STREAM※		実績値	(宮崎) 309※
3	歌劇「400歳のキャストラート」	12月13日	企画原案・選曲・主演／藤木大地 音楽監督・編曲・ピアノ／加藤昌則 朗読／大和田獏、大和田美帆 他	目標値	680
		演劇ホール		実績値	345
4	ウィーン・リング・アンサンブル	1月10日(中止)※ アイザックスターンホール	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	1,090
				実績値	—※
5	こどももおとなも劇場 #5 『卵の中の白雪姫』	1月15日～17日(中止)※ イベントホール	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	270 (2公演)
				実績値	—※
6	うたたねクラシック	2月14日	出演／ ふかわりょう、遠藤真理、加藤昌則、川久保賜紀、須田祥子、林美智子	目標値	240
		イベントホール		実績値	134
7	オルガンとその仲間たちシリーズ2020	2月23日	企画・監修・チェンバロ／大塚直哉 出演／桐山建志、大西律子、稲田竜斗、池田梨枝子、西谷直己 他	目標値	390
		演劇ホール		実績値	288
8	パイプオルガン プロムナード・コンサート 土曜日の朝はオルガンでランチを…「オルブラ」	6月27日、9月26日、3月6日	出演／ (vol.165) 古賀智子、伊豆謡子 (vol.166) 近藤岳、伊豆謡子 (vol.167) 福富由加里、伊豆謡子	目標値	600 (3公演)
		アイザックスターンホール		実績値	404 (3公演)
9	おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.11／Part.12	Part.11 動画配信※： 8月16日～ Part.12：2月27日	出演／ (Part.11 特別編) 黒木奈津季、大西映光、衛藤和洋、中山ゆかり、伊豆謡子 (Part.12) 黒木奈津季、大西映光、衛藤和洋、熊谷有耕、伊豆謡子  監督 (Part.11 特別編)／伊達忍	目標値	1200 (2公演)
		YouTube※、アイザックスターンホール		実績値	577 (1公演) ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パイプオルガン・チェンバロ講習会 2020	4月2日～5日 10月2日～4日 2月18日～2月21日 ※	講師／大塚直哉 カリキュラムコース／ ①入門コース、②初級コース、③上級コース、④初級修了生プログラム※	目標値	入場者 200・参加者 40
		アイザックスターンホール、練習室		実績値	参加者 24 ※
2	トライアル・シアター2020	11月7日～8日 12月17日～20日 3月9日～10日 ※	講師・振付／川合ロン 音楽／坂元陽太 テキスト／『夢十夜』(夏目漱石)	目標値	入場者 144(2公演)／参加者 10
		練習室※		実績値	参加者 7 ※
3	第14回ミュージック・アカデミー in みやざき 2021	3月21日～28日 ※	講師／ 徳永二男、漆原朝子、漆原啓子、神尾真由子、藤原浜雄、三浦文彰、毛利伯郎、三上桂子、横山幸雄、高木綾子、上野耕平  カリキュラムクラス／ マスタークラス、宮崎アカデミークラス	目標値	入場者 500・参加者 86
		全館		実績値	参加者 56

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ニグリノーダ『赤桃』	動画配信※： 8月8日～	作・演出／立山ひろみ 出演／ 高橋牧、福留麻里、河内哲二郎、 五島真澄  スタッフ／ 振付：福留麻里、作曲：高橋牧 他	目標値	入場者数 120(3公演)
		YouTube※		実績値	視聴数 460※
2	Let's 和の音♪	7月25日※	出演者／花岡操聖、内藤美和、上原潤之助、山中信人、川村葵山、望月左太寿郎、望月左太晃郎、望月左太助、柳田祐輔、熊谷愛香、高橋恭子、服部央、織田麻有佐 他	目標値	350
		演劇ホール※		実績値	67※
3	はじめてのクラシック♪	10月21日、11月14日、12月23日※	出演／ 第1回(西都公演)： 熊谷愛香、野崎さやか 第2回：田島千愛、片野郁子 第3回：日高由美子、河内朋子  スタッフ／ 監修：桐原直子	目標値	300(4公演)
		大練習室2、西都市民会館大会議室兼リハーサル室※		実績値	86(3公演)※
4	アートな学び舎2020	6月21日～3月11日	全体監修・講師／立山ひろみ 講師／ JOU、アンドレ・ヴァン・レンズバーグ、田村一行、鳴海康平、工藤真一、関本憲弘	目標値	51
		練習室、和室、Zoom※		実績値	44
5	音楽アウトリーチ「ミュージック・シェアリング」	6月19日～3月10日※	第5期登録アーティスト／ 田島千愛、野崎さやか、片野郁子  第4期登録アーティスト／ 壽山智美  第3期登録アーティスト／ 熊谷愛香  指導：桐原直子、児玉真	目標値	50×20会場 22公演=1100 (アウトリーチ)、260 (エキシビション#5)
		県内保育園、小学校等※		実績値	14会場 16公演=658 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

宮崎県立芸術劇場は、県民文化の拠点として、舞台芸術を中心に多様な文化活動を促進し、文化の香り高い地域づくりと心豊かな県民生活の創造に寄与することを目的に平成 5 年に設置された。平成 18 年度より当財団が指定管理業務を受託し、管理運営にあたっている。

令和 2 年度の事業実施に際しては、「第三期（平成 28 年度～令和 2 年度）指定管理申請書」（平成 27 年 8 月提出）、及び「みやざき文化振興ビジョン（改訂版）」（平成 29 年 7 月）に基づき、県民の「みる」「つくる」「つながる」の 3 つの拠点となることを目指した。

なお、宮崎県が行った令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの 5 年間の宮崎県立芸術劇場の指定管理者の募集について、正規の手続きに則り応募した上で、令和 2 年 12 月 9 日付けで（公財）宮崎県立芸術劇場が指定管理者の指定を受けた。令和 3 年 4 月 1 日からは、「第四期（令和 3 年度～令和 7 年度）指定管理申請書」に基づき業務を遂行している。

#### ●舞台芸術の拠点形成 「みる」

- ・ ホールの特性を最大限に活かした当劇場だからこそできる公演による、県内外からの来場者増
- ・ 感受性豊かな子どもたちに良質な舞台芸術に触れる機会を提供

#### ●文化創造の拠点形成 「つくる」

- ・ 宮崎の地域資源、人材を活用した宮崎オリジナルの舞台公演を創造し、「宮崎の今」を発信
- ・ 宮崎で活動している表現者に活躍の場を提供し、その活動を支援
- ・ 子どもたちの想像力を育み、本県の未来を担う心豊かな人材を育成

#### ●地域文化の拠点形成 「つながる」

- ・ 県内各地域へ舞台芸術を届け、県内他施設と連携して地域の文化力向上を支援
- ・ 県内の表現者を起用することによる舞台芸術への親近感の醸成

令和 2 年度事業については、上記の方針に基づき事業を組み立てたが、新型コロナウイルスにより事業の延期や中止、規模の縮小等の変更が余儀なくされた。未知のウイルスによる感染症の流行というこれまでに経験したことのない事態に際し、宮崎県の文化活動を支える中核施設として「感染症対策を講じた上での事業実施の方法、文化活動の維持・継続・支援、デジタル技術を活用した新たな手法の導入」といった方針の提示、そのための情報収集と共有といった役割を果たすことにも主眼を置いた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

平成 28 年に、県の文化振興に関する基本的計画「みやざき文化振興ビジョン」の改定にあたって行った調査（調査対象 20 歳以上の県民 3,000 人（男女各 1,500 人）を無作為に抽出）によると、「県民が文化に親しめるために必要なこと」という質問について、第 1 位が「子どもが文化に親しむ機会の充実」、第 2 位が「公演などの文化事業の充実」となっている。また、「県立芸術劇場に来館しやすくするための取組について」という質問では、「テレビや新聞、インターネットなどで情報をわかりやすく提供する」「入場料を安くする」「有名な演奏家や劇団等を招へいする」が上位の回答となっている。

これら県民の要望に応えるためにも、当劇場が良質な舞台公演や親子で楽しめる公演の鑑賞機会や、舞台芸術を体験する機会を継続的に提供し、文化事業を充実させていかなければならない。

令和 2 年度においては、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた状況下においても、文化活動の維持・継続のために可能な限り感染症対策を講じた上で事業を実施することを目指し、オンライン配信や WEB 会議システムといったデジタル技術を活用した取り組みも行った。結果として、県内の実演家等への有形・無形の支援に繋がっただけでなく、令和 3 年 7 月 3 日～10 月 17 日の期間に本県で開催される「第 35 回国民文化祭・みやざき 2020、第 20 回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」を実施していくための先行事例とすることもできた。これらの取り組みを通して、県民の文化活動とその意欲の維持に寄与することができたと考えている。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

当劇場においては、(1) 公演来場者へのアンケート と (2) 事業担当者による事業終了後の自己分析 の 2つの方法により、事業効果を測定している。

#### (1) 公演来場者へのアンケート

令和2年度事業については、感染症対策のため、紙媒体での来場者アンケートを停止し、WEB アンケートを実施することとした。一定数の回答はあったものの、地域特性もあって前年度までと比較調査することができるほどの回答数を得ることはできなかった。令和3年度からは紙媒体での来場者アンケートを再開し、再度実績値の推移を比較調査できるように取り組んでいる。

なお、令和2年度の入場率については、以下のとおりとなる。ただし、この数値についても新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた上でのものであり、単純に比較することはできない。また、入場者数についても同様の認識を持っている。

○ 入場率      H30 年度・・・61.2%                  H31 (R1) 年度・・・68.5%                  R2 年度・・・67.1%

#### (2) 事業担当者による自己分析

事業終了後に企画、広報の各担当者により、次の指標について取りまとめ、振り返りを行っている。

##### ○ 公益性、共感性、普及性、実現性、計画性、自立性、先駆性

→ 各事業とも概ね「十分達成できた」「ほぼ達成できた」「ある程度達成できた」の自己評価となっているが、事業の実施可否によって計画性や実現性の部分で評価のバラつきがみられた。

新型コロナウイルスの影響を受けていることから、通常の定性評価と比較することはできない。

##### ○ 広報の成果

→ 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための行動要請がなされるなど、特殊な状況となっていたことから、前年度はもとより次年度（令和3年度）とも自己評価を比較することが難しい。ただし、そうした中でもコロナ後の社会情勢の変化を見据え、以下の課題が見えてきた。

\* 新型コロナウイルス感染症の影響により、より明確となった事業のターゲット層に応じた広報媒体の適切な選択。

\* 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、社会インフラとしての重要度が増した WEB 媒体（WEB サイト、SNS）を活用した広報手法の検討。

令和2年度の助成金要望書提出段階では、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業それぞれに目標と指標を定めていたが、1年間を超える新型コロナウイルスのパンデミック（世界的な大流行）を受けて、事業の実施目的そのものも変わったと考えている。それは、平時を想定した事業の効果や事業の実施（実現）を目的とするのではなく、コロナ禍と称される状況下においても、感染症対策を講じてできる限り事業の実施・継続を図ることで、各方面との連携や事業に関わる様々なステークホルダーへの支援が主要な目的となったと言うこともできるのではないだろうか。このことは、公演が中止となったものも含めて、親子向け事業で多くの来場者・来場予定者があったことからもうかがい知ることができる。困難な状況において形成された「作り手・届け手」と「来場者・参加者」との関係性は、新型コロナウイルス感染症が収束した後こそ、その効果が発揮されてくるものと考えている。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のためのPCR検査費、オンライン配信のための費用等、当初想定していなかった経費が多数発生することとなった。しかし、年度開始当初からその財政的な影響が決して小さいものではないことが予想されたこと、感染症対策における必要性もあったことから、できる限り必要最小限の規模（人数、経費）で事業を実施していくことを基本とした。

また、事業の進行途中で中止が発生した場合においては、各相手方（公演委託先、出演者、スタッフ等）と協議を行い、必要に応じてキャンセル料の支払いを行った。

残念ながら当初の計画通りには進めることはできなかったが、できる限り事業の継続性を図りつつも収入減に対応するための経費圧縮にも取り組み、中止によって支出経費が大きく減少した事業もあることから、事業費（助成対象経費）全体としては約2,300万円の縮減となった。

感染症対策のため、いずれの事業も入場者数や参加者数を制限（定員の50%等）した上で実施したが、他に新型コロナウイルス感染症を原因とした大きな変更が発生した事業は以下のとおり。

#### 【全てを中止、一部を中止した事業】

- 「新 かぼちゃといもがら物語」#5 『神舞の庭』東京公演（令和2年12月11日～13日 3公演）  
※代替措置として宮崎公演を収録した映像の有料配信を実施（配信期間：令和3年3月3日～28日）
- ウィーン・リング・アンサンブル（令和3年1月10日 1公演）
- こどももおとなも劇場#5 東京乾電池『卵の中の白雪姫』（令和3年1月15日～17日 3公演）

#### 【内容、日程等を変更して実施した事業】

- おんがくのおもちゃ箱 Part.11（特別編として新たに動画を制作し無料配信）
- トライアル・シアター2020
- パイプオルガン・チェンバロ講習会2020
- ミュージック・アカデミーinみやざき2021
- ニグリノーダ『赤桃』（新たに動画を制作し無料配信）
- Let's 和の音♪
- はじめてのクラシック♪
- アートな学び舎2020
- 音楽アウトリーチ「ミュージック・シェアリング」  
※事業の一部である「アウトリーチアーティスト・エキシビジョン#5」は、開催を次年度（令和3年12月5日）に延期した。

年間全体としては、変更はありながらもオンライン配信やWEB会議システムといった新しい手法を導入し、それらを活用していくためのノウハウ（技術面、権利処理面）を習得したことで、宮崎県という広域を対象地域とする宮崎県立芸術劇場にとって、今後のさらなる活用が期待される成長性のある分野への先行投資とすることができたと捉えることができるだろう。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当劇場が実施する事業プログラムには、「県の芸術文化の拠点」としての高い芸術性が求められることから、劇場スタッフに加え、長年にわたり宮崎県の音楽界を牽引してきた桐原直子氏に音楽事業アドバイザーを、宮崎出身で東京を拠点に演出家として活躍する立山ひろみ氏に演劇ディレクターを委嘱し、より専門的な見地から企画、運営に当たっての指導、助言をもらっている。（桐原直子氏との音楽事業アドバイザー委嘱契約は、令和3年3月31日付けで終了した）

また、NHK エンタープライズと事業アドバイザー契約を結んでおり、ジャンルを超えた幅広い見地から、高い芸術性と県民からの親しみやすさを両立させるための企画への助言等を得ている。

当劇場は「コンサートホール」「演劇ホール」「イベントホール」の3つのホールを有し、それぞれのホール特性を最大限に活かした事業を行っている。中でもコンサートホールの音響性能の良さは、国内外の第一線の音楽家からも高い評価を受けており、迫力あるオーケストラから繊細な表現の室内楽の公演まで、優れた鑑賞環境の中で提供することができている。

また、コンサートホールに設置された国産最大級を誇るパイプオルガンを活用するため、オルガン・チェンバロ奏者で東京藝術大学教授の大塚直哉氏にオルガン事業アドバイザーを委嘱し、事業の企画、運営についての助言をもらっている。

上記の他にも（公財）宮崎県芸術文化協会及び（公財）宮崎県芸術文化協会内に2019年に設立されたアーツカウンシルみやざきとは、当劇場職員（1名）が（公財）宮崎県芸術文化協会及びアーツカウンシルみやざきが行う助成事業の審査員を務め、アーツカウンシルみやざきが主催する講座に講師を紹介するなど、宮崎県の芸術文化活動の普及振興という共通の理念の実践のため、日常的な協力関係を築いている。

以下、令和2年度に実施できた事業の内、特に創造的、独創的と認められる事業例

#### (1) 公演事業

##### ○ オルガンとその仲間たちシリーズ 2020

オルガン事業アドバイザーの大塚直哉氏の企画・監修によるバロック音楽を中心に構成される当劇場オリジナルの自主制作公演。出演者には県内在住の演奏家を多数起用。本公演では、演奏に加えてバロックダンスも取り入れたことで、クラシック愛好家だけでなく、パレエ関係者からも多くの来場と好評を得ることができた。

##### ○ 「新 かぼちゃといもがら物語」#5『神舞の庭』

地域社会に凝縮されている社会課題を背景に、宮崎に生きる人々の営みを描いた演劇の自主創作公演。土田英生氏、長田育恵氏、戌井昭人氏、シライケイタ氏による書き下ろし公演に続く第5弾は、シリーズ2作目として創作上演した『神舞の庭』（作：長田育恵）の新演出版を上演した。演出は、立山ひろみ演劇ディレクター。美術プランナーは、第1作から起用している土岐研一氏。出演者は一部を除いて初演時から一新し、前作（#4『幻視～神の住む町』）にも出演した東風万智子氏は、2作続けての出演となった。

東京公演は中止になったが、代替措置として、当劇場としては初の試みとなる宮崎公演を収録した映像の有料配信を行った。

#### (2) 普及啓発事業

##### ○ はじめてのクラシック♪

平成31年度から始めた、親子でクラシック音楽を楽しめるコンサートシリーズ。0歳から入場でき、平日の午前中に約40分という短い時間でプログラムを構成。演奏家には、当劇場のアウトリーチ登録アーティストを起用し、お話しも交えながらリラックスして楽しめる内容とした。新型コロナウイルスの影響がある中でも、毎回即完売となっており、強い県民ニーズに支えられた人気シリーズとして定着してきていることを改めて実感することとなった。

上記の事業の他にも普及啓発事業の一部講座では、WEB会議システムを導入して実施した。これまでは物理的な条件から県内遠隔地や県外に居住する方々を対象とすることはできなかったが、講座の内容によっては、今後はそうした方々も対象に加えることの可能性を探ることができた。デジタル技術の発展とその活用により、今後の新たな展開が期待されるところである。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業のうち「なるほどクラシックコンサート」「オルガンとその仲間たちシリーズ 2020」「新 かぼちゃといもがら物語 #5」においては、出演者の一部に県内で活動する演奏家、俳優を起用している。国内の第一線で活躍する演奏家・俳優等と共演することにより、演奏技術や演技技術の向上が図られ、地域での文化芸術活動の発展にもつながっている。また、教育普及事業の音楽アウトリーチ事業では、地元のアーティストを起用して実施している。

これら県内の芸術家は、令和3年度に本県で開催される「国文祭・芸文祭みやざき 2020」においても中心的な役割を果たすことから、彼ら、彼女らを通して県内の文化芸術活動の活性化とレベルの向上が期待される。更には、県内出演者の存在が、県民とコンサートや演劇との間の距離感を縮めることにも作用しており、観客増も図られている。

人材養成事業「トライアル・シアター2020」や、教育普及事業の各講座やワークショップ参加者の中からも、県内で文化芸術活動の中核を担う人材や、将来的に活動を行っていくための専門的知識の習得に努める人材が育ってきており、これらの事業が地域の文化芸術の振興の一翼を担っている。

令和2年度に関しては、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的な大流行）が発生するという極めて特殊な1年となった。国内はもとより国外においても舞台芸術業界は多大な影響を受けることとなり、当劇場の事業においても感染拡大防止のための事業の中止、海外演奏家の来日の見通しが立たないことを原因とした公演中止等の大きな影響を受けた。大変に困難な1年間であったが、県民の文化活動の維持・継続、感染症そのものや感染症拡大防止のための各種取り組みに起因するストレスの緩和に寄与するべく、科学的な根拠をもった感染症対策の情報を収集し、デジタル技術も活用した上でできる限り事業の実施に努めた。

これらのことにより、当劇場及び宮崎県内にオンライン配信をはじめとした権利処理やハード整備に関するノウハウ、新たな手法を用いた事業実施のノウハウが蓄積され、新型コロナウイルス感染症の収束後の宮崎県の文化芸術活動の振興にむけた環境整備を進めることができたと考えている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

宮崎県立芸術劇場が宮崎県の芸術文化の拠点として持続的に発展していくために、次のような人事戦略、経営戦略の基で事業を運営している。

#### ●専門スタッフの確保と育成

当劇場では、毎年職員全員が参加する研修会等を4~5回実施している。ただし、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症への対策を優先したため、例年よりは回数を減らして研修会を実施した。研修会の主な内容は、財団の経営状況についての勉強会、外部から講師を招いての接遇研修等。併せて、各種団体が実施するアートマネジメント研修会や公益法人会計の研修会への参加（オンライン参加・配信の視聴を含む）を行った。これらを通して、劇場スタッフに必要な知識と専門スキルの向上を図り、企画制作、舞台技術、経理等の高い専門性と、劇場運営への広い視野を併せ持つ人材を育成している。

また、新規採用と人事制度（異動と昇格）で人材の確保とその能力・意欲の向上を図り、将来的に財団運営を担える人材の育成に努めている。

平成30年度からは無期雇用へと順次移行し、職員が長期的なキャリアプランを持てるようにした。

#### ●自主財源の確保

当劇場の運営財源は、設置者である宮崎県からの指定管理料が約65%を占めているが、安定的な運営のためには協賛金等の自主財源も確保しなければならない。

子どもたちに良質な舞台作品を提供する公演や、オーケストラ公演への冠協賛等、企業・団体のCSR活動に資するような公演では、その趣旨を積極的に提案し、継続して支援を得られるよう努めていく。

劇場友の会の会員数は、概ね1,500名で推移。話題性のある人気公演を定期的に企画することで新規入会、及び既存会員の継続の動機付けとし、会員数の維持、拡大を図っている。

補助金・助成金では、文化庁文化芸術振興費補助金のほか、これまでに（一財）地域創造からも助成金を獲得しているが、引き続き補助金等が得られるよう、採択時の評価点を基に事業内容や収支予算を検証・改善していくこととしている。

なお、令和2年度の施設使用料収入は前年度比53%、施設利用率についても前年度比でホール利用率：60%、練習室利用率：80%となっており、イベントの開催自粛要請を始めとした新型コロナウイルス感染症の影響を受けた結果となったが、施設利用率の減少に伴って施設管理に係る経費も減少したため、財政面への影響は限定的なものとなった。

#### ●各方面とのネットワーク

当劇場は、宮崎県の中核をなす文化施設として宮崎県公立文化施設協議会の会長館を務め、全国公立文化施設協会、劇場・音楽等連絡協議会等に参加している。また、全国規模の巡回公演を実施する際には、各実施館との情報交換を行い、当劇場が巡回公演全体に係る助成金申請の主幹を務める場合もある等、劇場・音楽堂等間のネットワーク形成・強化に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度においては、情報収集時においてこれまでに築いてきたネットワークが有効に機能する機会が多く、今後の劇場運営の持続性を高めるためにもこうしたネットワークの維持やさらなる活用を図っていきたい。